Equipment Management

学生時代に学んだ専門知識を公共性の高い事業に活かす

高い専門性で設備面から製造を支える

私は学生時代、機械工学を学んでおり、そのスキルを活かせる仕事がしたいと考えていました。国立印刷局は、高い偽造防止技術と均質性を維持した上で大量生産しており、そのことに興味を持ちました。

入局前は、漠然と日本銀行券の印刷に携わるイメージを持っていましたが、実際の配属は設備管理部門。自らが機械を操作するのではなく、「ものづくり」をするための環境を設備面から「つくる」業務を担当しています。もともと設計やメンテナンスにも関心があり、何より公共性の高いものづくりに携われる、今の仕事にとてもやりがいを感じています。

入局して3年目の現在、主な業務内容は設計業務と工事監督業務です。私は建物や空調・給排水設備の機械設備分野を主として担当し、これまでに学んだ熱力学や流体力学などの知識を活かせています。また、機械用AutoCADも学んでいたため、建築用CADにもすぐに慣れることができました。

それぞれの得意を活かせる環境

新規採用時から研修が充実しており、OJTのサポートを受け、実践を交えながら仕事を覚えていきました。設備の仕組みを理解することと、局内外との調整には苦労もありますが、尊敬できる経験豊富な先輩方がたくさんいるので、困ったときにはいつでも相談できます。

私が設計した設備が職員の方々の役に立ち「ありがとう」の言葉を聞くと、やって良かったなと嬉しく思います。入局した当初は、設備面の効率ばかり考えていたのですが、工場内のあらゆる方と接する機会が増えるにつれて、使用する側の気持ちに寄り添えるようになったと感じています。また、トラブルが発生したとき、目の前の対応に追われるだけでなく、施設全体の設備を理解することで根本原因を突き止めることができるようになったことに成長を実感しています。

国立印刷局には、公共性の高い製品・サービスを提供するための多種多様な業務があります。皆さんそれぞれが得意なことを活かせるポジションで力を発揮できる環境があると感じています。

S. A　王子工場　生産管理部　設備管理課　設備管理チーム
2021年 入局

動画でわかる！ 私のリアルな1日

Official gazette Management

「紙から電子」への変革期に官報に携わる責任とやりがい

関係省庁や現場をつないで官報をつくる

就職活動中は、人が安心して生活できる環境づくりに関わりたいと思っていました。国立印刷局の製品はどれも社会インフラの一部です。自分も社会に貢献できると思い入局を決めました。

入局から2年間は製造工場で官報の印刷に従事しました。その後の2年間は官報や国の予算書などの品質管理業務、製造計画の立案に携わりました。その後本局に異動し、官報総括チームで勤務しています。

現在は、法改正に伴う新設記事の官報掲載に係る関係省庁や製造現場との調整や、官報普及を目的としたイベントの企画、外国における官報の利活用状況の調査などを担っています。携わるプロジェクトは関係省庁や製造現場など他部署との連携が必要です。これまでの知見が通用するかチャレンジしたり、さらに新たな知識を取り入れたりできる面白さを感じています。

製造現場での経験を活かしてDXを推進

国家公務員と聞くと「堅い」「気難しい」と思うかもしれませんが、実際には気さくで柔軟な考えを持つ人が多く、上司ともコミュニケーションが取りやすい職場です。

本局に異動し、プロジェクトを担当するようになった際、「あなたが製造部門に指示する立場だから、製造についても分からない部分は、些細なことでも現場にしっかりヒアリングしながら進めていこう。」と上司からアドバイスを受けたのが印象的でした。関係省庁と製造現場が連携できるよう打合せを重ね、やり切ったとき、自分の成長を実感でき、入局当初からの現場経験、学びが結集した喜びがありました。

官報は今、「紙から電子」へと変化するプロセスにあります。歴史的な転換期に立ち会えることを嬉しく思いますし、果たさなければならない使命の重さに身の引き締まる思いです。情報サービスを社会へ提供していく上でDXを推進するためにはデジタルに長けた人材も必要で、私も勉強中です。

国立印刷局は日本銀行券の印象が強いかもしれませんが、私は官報事業も国立印刷局の大きな魅力の一つだと思います。変化する社会の基盤づくりに貢献できる官報に皆さんも是非携わってみませんか。

R. K　本局　官報部　官報グループ　官報総括チーム
2018年 入局

動画でわかる！ 私のリアルな1日

INTERVIEW

Quality Management

20年に一度の改刷という使命に貢献できた誇りとやりがい

「誇れる」「楽しい」仕事を求めて

私は学生の頃から、「誇れる仕事」「楽しいと思える仕事」をしたいと考えていました。そんなとき、国立印刷局に就職した先輩から話を聞く機会があり、高い偽造防止技術を用いた日本銀行券を製造する仕事に、自分が仕事に求める要素が備わっていると感じました。

入局し最初の3年は日本銀行券の用紙の製紙部門のうち、紙料を用紙に加工する抄造工程に作業員として携わりました。その後は同工程の品質管理担当者を経て、現在は製紙部門全体の品質管理を担当しています。

最初に配属された抄造工程では、日本銀行券において重要な偽造防止技術の一つであり、最も印象的な「すき入れ(すかし)」に関する業務に従事しました。製造部門での機械の各種調整方法等、作業工程の全体像を把握できた経験は、現在の業務における実績の分析や改善事項の発案に活かされています。

現在の製紙部門の品質管理業務では、日々の製造実績や改善実験の結果をもとに、安定的な製造を行うため様々な取組を行っています。各部署と連携して取り組んだ実験が円滑に行え、良い結果が得られたときは、大きな達成感があります。

新銀行券安定製造の礎に関われた満足感

入局4年目に、改刷事業に携われたことは貴重な経験でした。当時は抄造工程の品質管理を担当しており、実験担当者から「新しい日本銀行券の製造に向け、安定した製造ができるように、現時点で製造部門として課題、要望、改善点をすべて挙げてほしい」と言われました。私が作業者1人1人にヒアリングを行い、その意見が実験に反映されました。改刷という特別な事業に貢献でき、とても嬉しかったことを覚えています。

入局から8年が経過し、製造現場や品質管理部門など様々な部署を経験するとともに、多くの方々と仕事をさせていただきました。その中で培った職場の方々との信頼関係が仕事をする上での宝だと思っています。最近では、業務の提案時にも「君が言うのなら」と協力してくれる方が増え、周囲の支えを得ながら困難な課題も協力して立ち向かえていることに、自分の成長と仕事の楽しさを感じています。

工場で働くことに不安を感じる学生もいるかもしれませんが、世界トップレベルの偽造防止技術を誇る日本銀行券をはじめとする製品を自分が製造しているという実感が「誇れる仕事」に繋がると思います。製造における疑問や改善事項を問題提起し、実作業ですぐに反映することができ、作業の効率化を実感できることは、製造現場ならではの魅力だと感じます。

S. T　小田原工場　生産管理部　品質管理課　品質チーム(製紙)
2016年 入局

動画でわかる！ 私のリアルな1日

ここにしかない独自技術の研究開発に携わる醍醐味

Research Management

製造現場から研究員、そして研究管理へ

大学院では化学工学を専攻していましたが、専攻にとらわれず、人々にとって身近な製品のものづくりに関わりたいと考え就職活動をしました。そんな中、偽造防止技術を活用した日本銀行券など、身近で特殊な製品を製造する国立印刷局に興味を抱きました。実際に入局後は、日本銀行券の印刷だけでなく、色々な製品の製造や、それらに関わる研究開発を行っていることがわかりました。

入局時は日本銀行券の製造工場に勤務し、最初の2年間は製造現場、後半の2年間は品質管理を経験したのち、研究所に異動しました。研究所では当初研究員として製造設備の開発に関わり、現在は研究総括チームで働いています。

研究総括チームは、研究をスムーズに進捗させるために各所と調整することが主な業務です。工場からの依頼業務のマネジメントや、研究所へ新たな装置を導入する手続に関する連絡や相談などを担当しています。研究員が研究しやすい環境を整えるのが私の役割であり、これまでの製造現場や研究員としての経験が、現在の仕事にいきています。

伝統を大切にしながら新しい価値を生み出す

偽造防止技術の中には国立印刷局でしか扱っていない特殊な技術もあります。その技術をどのような製品に組み込んでいくかを考えたり、製品のデザイン性の高さに触れたりできることに、仕事の面白さがあると思います。

しかし、いかに優れた技術があっても、やはり大切なのは人と人との繋がりです。なぜなら、日本銀行券をはじめとした製造業務は、基本的にチームで行われるからです。メンバーが高品質なものをつくりたいというプロ意識と責任感、得意分野を持っており、各自の経験やアイデアがうまく噛み合ったときに、滞っていた問題が解決されていくと考えます。私自身、頼りにされたり感謝されたり、自身の経験をチームの仕事に役立てられた際、大きなやりがいや成長を感じています。

現在の日本社会は、少子高齢化やデジタル化など大きな変革期を迎えており、国立印刷局は変化に対応し、新たな事業分野に挑戦しています。これまで培ってきた伝統や技術を大切にしながらも、既成概念を超えて新しい価値を生み出したいという方と、是非一緒に働きたいと思っています！

I. Y　研究所　研究管理部　研究管理課　研究総括チーム
2015年 入局

動画でわかる！ 私のリアルな1日